

# NEWSLETTER

## 比較経済体制学会

No.52 December 2015

### Contents

- ・ 新役員体制のご案内
- ・ 新代表幹事からのご挨拶
- ・ 2015年度比較経済体制学会第55回全国大会を終えて
- ・ 2016年度比較経済体制学会第56回全国大会のお知らせ：Call for Papers
- ・ 編集委員会からのお知らせ
- ・ 比較経済体制学会第7回研究奨励賞決定
- ・ 比較経済体制学会第55回会員総会議事録
- ・ 2014年度会計報告，2015年度学会予算
- ・ 役員選挙結果
- ・ 幹事会だより
- ・ 2016年EACES（欧州比較経済学会）大会のお知らせ
- ・ 2017年第2回比較経済世界大会のお知らせ
- ・ 事務局だより

### 新役員体制のご案内

今大会の総会では新役員選挙が行われ、新しい役員体制が決まりました。新しい幹事に選出されましたのは、東日本地区(五十音順)：安達祐子(上智大学)、大野成樹(旭川大学)、久保庭真彰(一橋大学)、雲和広(一橋大学)、酒井正三郎(中央大学)、杉浦史和(帝京大学)、栖原学(日本大学)、中村靖(横浜国立大学)、道上真有(新潟大学)各会員、西日本地区(五十音順)：武田友加(九州大学)、田中宏(立命館大学)、田畑理一(大阪経済法科大学)、藤原克美(大阪大学)、堀江典生(富山大学)各会員で、会計監査には加藤志津子(明治大学)、斉藤久美子(和歌山大学)両会員が選出されました。

そして、第1回幹事会におきまして新しい代表幹事には中村靖会員が選出され、事務局長には、道上真有

会員、会員入退会・名簿管理担当/Web担当には堀江典生会員が選出されました。また、会計担当には、幹事会指名により岩崎一郎(一橋大学)会員が役員選挙細則第6条事務局担当幹事として選出されました。なお今期の新幹事の任期は2015年11月8日～2017年全国大会終了までです。

このほか、2016年全国大会(弘前大学)では秋葉まり子大会組織委員長、中村靖プログラム委員長、2016年秋期大会(大阪経済法科大学)では田畑理一大会組織委員長、といった布陣となっております。

新しい体制のもとで、なお一層会員の皆様にはご協力をお願いいたします。

(事務局)

## 新代表幹事からのご挨拶

田畑理一氏の後任として代表幹事の大役を務めることになりました。いよいよ代表幹事の役を担うような年齢層になりましたが、「少年老いや早く学成り難し」で、いまだに学問のかけらも修まった気がいたしません。それどころか、本学会に加入して以来三十余年の間の日本経済、世界経済の変貌は著しく、予想もしなかった事態が次々と展開しています。経済社会を理解するというゴールに向かう速度よりも、ゴールの方が速く遠ざかっているかのようです。このままでは虚しくなるだけですが、学会は、個人の狭い視野と時間の制約を克服して、いわば集合的知性としてゴールにたどり着くことを目指すものといえるかもしれません。その学会の活動にわずかながらでも貢献させていただく機会を与えていただいたことに感謝いたします。

さて、今回の代表幹事選出の実務には、2つの印象深い特徴がありました。1つは、第1回比較経済学世界大会と第9回国際中欧・東欧研究協議会世界大会が開催されたことによる主として時間的制約から本学会の春季大会が開催されず、かつ秋季大会も関連他学会の開催日との調整をとるための日程的余裕が無かったことです。このこと自体は、先任の代表幹事、幹事諸氏の努力により、我が学会の国際化が進んだことの表れで、心から歓迎すべきことと思います。多くの学会員が比較経済学世界大会と国際中欧・東欧研究協議会世界大会に参加され、また他の国際学会に参加されていると思います。我が学会の春、秋の大会にも、ほとんど毎回のように外国人研究者による講演、セッションが組まれるようになりました。国際化は大いに歓迎されるべきことですが、同時に我々の資源に限りがあることも事実です。残念ながら今回選出された幹事で実際に出席できた人は多いとはいえませんでした。

2つは、これも先任の代表幹事、幹事諸氏の努力により学会員数は維持しているものの、やはり少子高齢化の影響が学会にも現れていると言わざるを得ないことです。本学会の規模が決して大きいとはいえない状況と幹事の三選禁止規定とにより、幹事会構成メンバーの振動状態という思わぬ事態が生じてしまいました。加えて、幹事の中には（おそらくその年齢層ゆえに）大学の行政職務上の理由で学

会活動を十分にはおこなえないという方が多くおられました。現在の年齢構成では致し方ないことと思います。

現状では、今後も今回のような事態はますます頻繁におきることになるでしょう。幹事、代表幹事の選出方法になんらかの工夫をすべきときになっていようと思います。より本質的には、やはり我が学会を一定規模で維持し、さらに発展させるため、今後とも若返り（学会員数の拡大）に力を注ぐしかありません。

若返りと学会員数拡大のための手段としては、学会の一層の国際化と開放化の推進以外の選択肢は思いつきません。実際問題として、私の大学では比較経済体制に限らず、そもそも経済の博士課程進学者がごく少数です。その上、進学者はほぼすべて留学生です。おそらく学会員の多くの方々が同様の状況に直面されているのではないのでしょうか。留学生が博士課程に進学されるのは大いに結構ですが、彼らの多くはやはりやがて帰国します。

若返りと学会員拡大のためには、比較経済体制学会が経済学のより広い分野を取り込むことで、会員数、特に若い会員の数を増やすしかないでしょう。そのためには、学会大会において、英語だけでおこなうセッションを1つ提供するということが一案として考えられるかもしれません。そのセッションは院生、若手研究者のトレーニング用のセッションであってもよいでしょう。おそらく比較経済体制学会が対象とする研究トピックは広い分野にまたがります。おそらく日本人、留学生ともにそのような機会への需要は多いのではないかと思います。我が学会は、研究範囲の広さゆえ「何をやっているかわからない」ともいわれますが、我々が力を注いでおこなっている「広い研究範囲」を利点として活用すべきであろうと思います。

代表幹事として非力ではありますが、会員諸氏のご理解とご協力によって、当学会の存続・発展を図り、私に与えられた責務を全うしていきたく考えております。宜しく願いいたします。

(代表幹事 中村 靖)

## 比較経済体制学会2015年度第55回全国大会を終えて

2015年度の全国大会は、諸般の事情で例年の6月ではなくて、銀杏が色づき始めた11月7日・8日に、東京水道橋にある日本大学経済学部キャンパスにて開かれました。大会当日は、興味深い報告と熱心な討論が行われ、参加された会員諸氏にとって有意義な大会になったのではないかと思います。

今回のプログラムは、大会初日に二つの特別セッションと分科会A、Bが行なわれ、二日目にはすべての時間を共通論題にあてるといふ、通例とは異なる野心的な構成となりました。まず初日の午前中には、特別パネル1と題されたセッションが、池本修一会員の司会のもとに行われ、チェコ中央銀行の Filip Novotný 氏、Luboš Komárek 氏、小山洋司会員、田中宏会員という4人の方々が中欧諸国の経済に関する報告をされたのちに、予定討論者の大田英明会員によるコメントがなされました。

午後の1時から3時までは、自由論題として、二つの会場で分科会が開かれました。A会場では、大野成樹会員の司会により、山脇大会員、長友謙治会員、堀江典生会員による報告が行なわれ、それぞれ小森吾一会員、野部公一会員、藤原克美会員による討論が行われました。またB会場では、鈴木拓会員の司会により、黒坂真会員、樋渡雅人会員、山田大地会員、Somsay Ouanphialay 会員による報告が行われ、カン・ビクトリヤ会員、雲和広会員、三嶋恒平会員による討論がなされました。

続いて特別パネル2が行われ、中村靖会員の司会によって、「資本主義経済システムと人類社会の存続可能性」という論題のもとで三宅芳夫氏、西部忠氏、吉原直毅会員の3名による報告が行われました。壮大なテーマに関する3報告の終了後は、フロアとの活発な討論で盛り上がったと聞いております。

2日目は、上で述べたとおり、すべての時間が共通論題『世界経済の地殻変動』に関する報告と討論にあてられました。まず中尾茂夫氏による米国ドルに関する報告があり、さらに酒井啓子氏による中東に関する報告、本村真澄氏による原油価格に関する報告が続きました。昼休みを挟んだのちには、渡邊真理子会員が中国経済の現状について、また田畑伸一郎会員がロシア経済の現状について、さらに蓮見雄会員がEUの現状について、それぞれ報告されました。これらの報告を受けて上垣彰会員、河東哲夫会員、酒井正三郎会員の3名の予定討論者が、6つの報告についてそれぞれコメントや質問を述べ、報告者からリプライがありました。全体討論では、フロアからいくつかの興味深い論点が提出され、自由闊達な議論が交わされました。

以上、2日間にわたって、共通論題、自由論題のいずれについても非常に興味深い報告と活発で有意義な討論が行われました。ご来場いただいた会員の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。また、大会の運営については大会組織委員の池本修一会員、岩崎一郎会員、カン・ビクトリヤ会員、杉浦史和会員、日基健雄会員にも数多く助けられました。休憩室の変更が徹底しなかった点など至らぬところがあったかと思いますが、とりあえずは無事に終えたことに大会組織委員長としてほっとしております。

今回の大会は、時期的な問題もあって、いくつかの他学会の大会と期日が重なることとなりました。そのため参加された会員の方が67名と、東京で開かれた学会としてはやや少なくなったかもしれません。実際、報告者の中にも、他学会との掛け持ちの方もあったのがおつております。また、一日目の夕刻に行われた会員総会では、特に出席者が少なかったように感じられました。その一方で、今回の大会では、合計7名の非会員の方々に報告者として参加していただきました。異例のこととは思いますが、野心的な論題を展開するための必要な措置であったと考えております。今回の大会が、学会の発展につながることを祈念するとともに、会員諸氏のご研究の発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

(栖原学・大会組織委員長)

# 2016 年度比較経済体制学会第 56 回全国大会（弘前大学）のお知らせ

## —自由論題報告者の募集 Call for Papers—

比較経済体制学会 2016年度第56回全国大会は、次の日時と場所で開催されることになりました。

日時：2016年6月4(土)および6月5(日)

場所：弘前大学教育学部（青森県弘前市文京町1)

共通論題：「国民経済とグローバル化する産業発展—比較経済学的アプローチ—」

2 つの観点からこの共通論題を設定しました。

第 1 に、現実の経済におけるグローバリゼーションの進行です。特に生産のフラグメンテーション、バリューチェーン、サプライチェーンの国際展開は、企業・産業の在り方を変え、「国民経済」と産業・企業との関係、あるいは「国民経済」そのものの在り方に影響していると思います。今回の共通論題では、企業や産業の実証研究を推進している方々を中心にお集まりいただき、企業・産業と国民経済との関係を念頭に置きながら、各国、各地域の状況について議論をしたいと考えています。

第 2 に、比較経済学の方法の観点です。社会主義と資本主義の体制比較、あるいは体制転換、移行経済と資本主義諸類型の比較の学問的意義が低下しているとは思えませんが、社会主義体制崩壊から 20 余年を経て、「体制比較」はもちろんのこと、「移行の終焉」が認識される中で、経済体制類型論的観点からの分析への関心が相対的に後退していることは否定できません。本学会会員の学問的スタンスも、諸経済の異同を、ミクロな、ローカルな、歴史依存的な、主体的な、あるいは非経済的な基底的要因にまでさかのぼって比較する「比較経済」的観点へとシフトしているように思われます。本共通論題では、このような方法的意識から、多くの地域についての報告をお願いしました。

2015 年 6 月におこなわれた第 1 回比較経済学世界大会ホームページ冒頭に「比較経済学の定義」

([www.world-congress-comparative-economics.it](http://www.world-congress-comparative-economics.it) 参照) がおかれているように、「比較経済」で何が可能かは世界的にもなお模索中と思います。本共通論題が、本学会が優位性を有する「比較」分析

という学問分野を保持しつつも、新たな可能性を模索しようとするプロセスに寄与できることを期待しています。

自由論題の報告者を募集致します。自由論題は、前回大会同様に、(a) パネル応募形式のものと(b) 個人応募形式のもの2種類を設定することにしました。

**(a) パネル応募形式**は、司会、報告者(3人)、コメンテータ(1-2人)を自主的に組織していただくものです。報告・コメント・会場討論を合わせて90分程度で終了するものをお考えください。パネル組織者は次の事項を末尾の連絡先にお知らせください。

- (1) パネル組織者の氏名、所属、連絡先
- (2) 報告者・司会者・討論者の氏名、所属
- (3) パネルのタイトル
- (4) パネル全体の趣旨と各報告の内容
- (5) 各報告の論題

以上に関して、A4判1~2枚程度にまとめた文書をご用意ください。

**(b) 個人応募形式**の方は、以下の事項を末尾の連絡先にお知らせください。

- (1) 氏名、所属、連絡先
- (2) 論題
- (3) 報告内容の骨子(400~600字程度)

**(a) (b) 共に締切は3月7日(月) 17時**と致します。

自由論題は報告者の希望に沿うことを旨としますが、会場等の都合により、ご希望に添えない場合もあることをあらかじめご了解ください。皆様のご応募をお待ちしております。自由論題パネル・報告者の決定については、3月中に応募者皆様にお知らせ致します。なおその後の日程ですが、報告要旨原稿(電子情報提出・討論者および分科会座長のためのフルペーパー御提出をお願いすることとなります。こちらの決定詳細につきましては追って再度、皆様にお知らせ致します。

プログラム委員:

中村靖(委員長, 横浜国立大学), 鈴木拓(帝京大学), 田畑伸一郎(北海道大学), 蓮見雄(立正大学), 林裕明(島根県立大学)

大会組織委員:

秋葉まり子(委員長, 弘前大学), 菅沼桂子(日本大学), 堀江典生(富山大学), 道上真有(新潟大学)

**\*自由論題(パネル・個人応募)連絡先:**

プログラム委員 林裕明  
〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2  
島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科  
E-mail: h-hayashi (at-mark) u-shimane. ac.jp

(大会プログラム委員会・大会組織委員会)

\*\*\*\*\*

## 編集委員会からのお知らせ

学会機関誌『比較経済研究』(英語名称: Japanese Journal of Comparative Economics)は, レフェリー制投稿誌として, 年2回発行しています. 学会幹事会の委嘱により, 第52巻及び第53巻は, 雲和広編集委員長(一橋大学), 白石麻保副編集委員長(北九州市立大学), Kan Viktoriya 編集委員(帝京大学), 杉浦史和編集委員(帝京大学), 林裕明編集委員(島根県立大学), 安達祐子編集委員(上智大学)の6名が, その編集を担当しております. どうぞよろしく願いいたします.

52巻2号が先日刊行され, 会員の皆様に発送されました. その内容は次の通りです.

特別論文

Andrea Szalavetz, “Upgrading and Subsidiary Autonomy: Experience of Hungarian Manufacturing Companies”

特集「ウクライナ危機とロシア」

服部倫卓「ロシア・ウクライナの鉄鋼業の比較」

石郷岡建「ウクライナ危機の背景の東西分裂とその行方」

書評

堀林巧著『自由市場資本主義の再形成と動揺—現代比較社会経済分析—』(吉井 昌彦)

雲和広著『ロシア人口の歴史と現在』(五十嵐徳子)

塩谷昌史著『ロシア綿業発展の契機—ロシア更紗とアジア商人—』(栖原学)

第53巻第1号(2016年1月刊行予定)への投稿は, 2015年9月30日に締め切りました.

投稿原稿(論文(400字×55枚以内), 研究ノート(400字×45枚以内), 書評(400字×17枚以内))を募集中です. 原稿は随時受け付けていますが, **次号53巻2号(2016年6月刊行予定)の投稿は切**は, **2015年12月末**です. 同号に掲載ご希望の会員は, 安達祐子編集委員(yukoadachi [at mark] nifty.com)に, 原稿をご提出下さい. なお, 企画の都合上, 掲載号が次々号となる場合がございます. 続く**54巻1号(2017年1月刊行予定)の投稿は切**は, **2016年8月末**です. こちらは次期編集委員会が担当します.

なお, 当学会に連続2年度以上在籍している若手研究者(院生会員及び年齢40歳以下の正会員)が単独執筆した機関紙掲載論文は, 原則として, その全てが自動的に「研究奨励賞」の候補対象となります. 応募資格を持つ会員の皆様は, とくに奮ってご投稿ください.

『比較経済研究』は, 独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)の登録雑誌です. 最新号を含む全てのバックナンバーが閲覧可能です. どうぞ御活用ください. 電子版トップページのアドレスは, <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjce/-char/ja/>です.

(学会機関誌編集委員会)

## 第7回研究奨励賞決定

比較経済体制学会第7回研究奨励賞審査委員会(審査委員長:田畑伸一郎会員)は、機関誌掲載による選考対象作2作のなかから厳正なる審査の結果、以下のように受賞者を決定し、11月7日に開催された比較経済体制学会幹事会で報告されました。なお、第7回研究奨励賞授賞式は、2016年度全国大会(弘前大学)において行われます。

受賞者: 柳学洙会員

対象論文:「1970-1980年代の朝鮮民主主義人民共和国における連合企業所の設立と組織形態:  
企業レベルデータによる定量的接近」『比較経済研究』第52巻第1号2015年1月59-72頁

【抄録】北朝鮮指導部は1970年代以降、連合企業所と呼ばれる企業集団の設立を推進した。本稿では、連合企業所の制度成立過程を検討し、その導入の目的が資材供給の正常化や規模の経済による生産活動の効率化にあったことを明らかにした上で、その組織形態の把握を目指して、企業レベルデータを用いた定量分析を行った。本稿の分析結果は、指導部が打ち出した政策方針に従う形で、連合企業所の形成が実行されたことを強く示唆した。

### 第7回比較経済体制学会研究奨励賞 審査結果報告

審査委員長 田畑伸一郎(北海道大学)  
審査委員 木崎翠(横浜国立大学)  
審査委員 杉浦史和(帝京大学)  
審査委員 徳永昌弘(関西大学)  
審査委員 堀江典生(富山大学)

第7回比較経済体制学会研究奨励賞の審査対象論文は2点であった。同奨励賞審査委員会は、慎重な審査の結果、2点の対象論文のうち、柳学洙「1970-1980年代の朝鮮民主主義人民共和国における連合企業所の設立と組織形態:企業レベルデータによる定量的接近」を学会奨励賞受賞作品に相応しいものと判断した。

本論文は、韓国で刊行された『北韓の企業』掲載の企業のなかから「道-市・群」または直轄市レベルまでの所在地記載がある企業を抽出し、そのデータによって、連合企業所の3つの組織形態(地域内垂直統合型組織、地域内水平統合型組織、全国ネットワーク型組織)と企業規模、所属産業、産業集積度という3つの要因との関係を定量的に分析したものである。その結論は、連合企業所が3つの形態に分化する際に所属産業が重要になっていること、地域内水平統合型組織は鉱業など資源賦存に影響され、産業集積が比較的低い地域で組織されていることなど、北朝鮮の連合企業所の産業配置の傾向とそれに対する北朝鮮指導部の方針との整合性を明らかにしている。

本論文のメリットとしては、第1に、政治的にも研究資料利用においても難しい研究対象地域を相手にして、我が国においてほぼ皆無であった連合企業所の実態に関する定量分析に果敢に取り組んだこと、第2に、資材の流通・分配機能改善のための努力がこの時期に行われていたことを具体的に明らかにしたことが挙げられ、我が国の北朝鮮研究に新たな地平を築くものであると評価しうる。

確かに、本論文に対しては、分析結果を並列的に述べていて結論がやや平板であること、他の国(特にソ連)の企業合同との比較が不十分であることなど改善すべき点も指摘しうるが、審査委員会は上述のメリットがこうした点を大きく上回ると判断した。

2006年6月5日制定  
2010年6月6日改正

## 比較経済体制学会研究奨励賞規程

(名称)

### 第1条

比較経済体制研究に関する学術の発展にともに貢献すると認められる研究論文を顕彰することを目的として、会員(若手研究者)に対して「比較経済体制学会研究奨励賞」(以下「奨励賞」と呼ぶ)を与える。

(審査対象となる論文)

### 第2条

審査対象者の条件(第5条)を満たす会員によって執筆され、本学会機関誌あるいは他の学術誌に掲載された論文を審査対象とする。ただし入会初年度に公刊された論文は対象としない。他の学術誌に掲載された論文の場合には、本人あるいは他の会員の推薦を要する。また、論文は単著であることを要する。

(審査対象となる期間)

### 第3条

応募を行なう年度(当該年度)の前年度4月1日より当該年度3月31日までの2年間に公刊された論文を審査対象とする。

(授賞の回数および受賞者の数)

### 第4条

授賞は、2年ごとに1回とする。また受賞者は、原則として1名とする。

(審査対象者の条件)

### 第5条

審査対象者となる会員(若手研究者)は、当該年度を含み2年度以上連続して本学会に在籍し、院生会員または原則として審査対象期間の最終日において40歳未満の正会員とする。

(推薦方法)

### 第6条

第2条による、「他の学術誌に掲載された論文」の場合には、自薦または推薦者1名の他薦による。申請は、事務局による所定書類に基づく。

(審査機関)

### 第7条

幹事会は、翌年度6月に、5名からなる審査委員を指名し、審査委員長は審査委員の互選により選ばれる。ただし、原則として審査対象者の推薦者および指導教員は除外される。

(審査結果の発表)

### 第8条

審査委員会は、翌年度9月末日までに審査結果を幹事会に報告しなければならない。審査結果は秋期大会で発表される。

(表彰)

### 第9条

表彰は、原則として翌々年度全国大会総会時に行う。表彰に際し、表彰状と副賞が授与される。

(規程の改正)

### 第10条

本規程の改正および廃止には、幹事会の発議に基づき会員総会での出席会員の過半数の賛成を必要とする。

附則

1. 本規程は2010年6月6日から施行する。
2. 本規定に基づく募集の第一回締め切りは2011年3月31日とする。

## 比較経済体制学会第55回会員総会議事録

会員総会議長に岩田昌征会員が選出され、総会が開催されました。総会は、配布資料とプロジェクター資料にもとづいて進められました。以下、報告事項と審議事項に分けて記載します。

### 報告事項

まず第7回学会研究奨励賞(2013-2014年度)の審査結果と講評が、田畑伸一郎審査委員長より発表された。柳学洙「1970-1980年代の朝鮮民主主義人民共和国における連合企業所の設立と組織形態:企業レベルデータによる定量的接近」『比較経済研究』第52巻第1号2015年1月を学会奨励賞受賞作品に相応しいものと判断されたことが発表され、了承されました。

続いて、退会者・入会者の報告そして会務報告が事務局より行われました(2015年11月末現在の現会員数については下記を参照)。また、2016年6月4-5日開催の比較経済体制学会全国大会の準備状況について、弘前大学教育学部にて開催、組織委員会:秋葉まり子会員(委員長)、菅沼桂子会員、堀江典生会員、道上真有会員が就任すること、プログラム委員会:中村靖会員(プログラム委員長)、鈴木拓会員、田畑伸一郎会員、蓮見雄会員、林裕明会員が就任すること、共通論題「国民経済とグローバル化する産業発展:比較経済学的アプローチ」、自由論題応募締め切りは2016年3月7日とすることが報告されました。

現会員数(2015年11月末現在)251名  
(正会員176名、院生会員26名、シニア会員49名)  
森本忠夫会員逝去による退会のため、総会時より会員数が1名減少の251名となりました。

日本学術会議・日本経済連合会関連の報告が資料に基づき行われました。国際研究集会関係として本学会が共催した第1回比較経済世界大会(2015年6月23日-25日ローマ)が成功裏に開催されたこと、本学会が開催を協力したICCEES2015幕張大会(2015年8月3-8日)が予想を上回る1300人以上が参加する成功裏に開催されたことが報告されました。

最後に編集委員会より、第52巻第2号が刊行され、2015年9月30日に締め切られた第53巻第1号が編集中であること、第52巻第2号が2015年12月末締切で投稿募集中であることが報告されました。

### 審議事項

学会役員選挙実施のため、上垣彰会員と田畑伸一郎会員が選挙管理委員として選出され、ただちに会員による幹事並びに会計監査委員選挙が行われました。役員選挙結果と幹事、会計監査については、役員選挙結果を参照。

2014年度決算について、会計監査を受けた決算書が資料として提出され、了承されました。2015年度予算が原案通り承認されました。

(事務局)

### 訃報

森本忠夫会員2015年5月11日逝去(享年88歳)

森本先生は、1952年京都大学経済学部卒業後、東洋レーヨン(現・東レ)においてソ連貿易に長年従事。東レ経営研究所社長を経て龍谷大学経済学部教授。著書『ソ連についてペレストロイカは「第2の革命」となるか』、『ソ連経済730日の幻想』、『最新 ソ連経済の読み方』、『ソ連はいつ立ち直れるか』(佐藤経明氏と共著)など多数。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 2014年度決算 2015年度予算

## 役員選挙結果

上垣彰会員，田畑伸一郎会員を選挙管理委員とし，事務局作成の幹事被選挙人名簿，会計監査被選挙人名簿にもとづいて投票が行われました。開票結果は以下のとおりでした。投票総数は29票でした。

幹事投票結果			
東日本	票数	西日本	票数
1 中村靖	14	1 堀江典生	18
2 雲和広	12	2 田畑理一	13
3 久保庭真彰	11	3 田中宏	10
4 酒井正三郎	10	4 藤原克美	10
5 杉浦史和	10	5 武田友加	8
6 道上真有	9	吉井昌彦	6 次点
7 栖原学	8		
8 安達祐子	7		
9 大野成樹	7		
池本修一	7 次点	同数の場合は年少者が幹事に選出	

会計監査投票結果			
	票数		
1 加藤志津子	5		
2 岩崎一郎	4	役員選挙細則第6条事務局担当幹事に選出	
3 斎藤久美子	4		
上垣彰	3 次点		
雲和広	3 次点		

選任された新役員は以下のとおりです。

幹事(任期:2015年11月8日～2017年全国大会終了まで)

代表幹事 中村靖 (横浜国立大学)

東日本地区(五十音順):

安達祐子(上智大学), 大野成樹(旭川大学), 久保庭真彰(一橋大学), 雲和広(一橋大学), 酒井正三郎(中央大学), 杉浦史和(帝京大学), 栖原学(日本大学), 中村靖(横浜国立大学), 道上真有(新潟大学)

役員選挙細則第6条事務局担当幹事:岩崎一郎(一橋大学)

役員選挙細則第7条大会開催校幹事:秋葉まり子(任期:2016年6月全国大会終了まで)

西日本地区(五十音順):

武田友加(九州大学), 田中宏(立命館大学), 田畑理一(大阪経済法科大学), 藤原克美(大阪大学), 堀江典生(富山大学)

会計監査(五十音順)

加藤志津子(明治大学), 斎藤久美子(和歌山大学)

事務局幹事: 道上真有(統括), 岩崎一郎(会計), 堀江典生(メンバーシップ・Webサイト)

## 幹事会だより

大会当日、総会に先立ち、幹事会が行われました。出席 3 分の 2 以上で幹事会は成立しました。総会議事と重複する部分もありますが、以下議事録をご紹介します。

### 報告事項

冒頭に、前回幹事会議事録および持ち回り議事録の確認が行われました。2014 年度決算ならびに 2015 年度予算については 7 月に開催した持ち回り幹事会で審議し承認されております。次に、入会者・退会者情報が堀江担当幹事より示されました。

次に、2015 年度会務報告、日本学術会議・日本経済学会連合関連の報告が行われました。比較経済体制学会奨励賞に関して、第 7 回奨励賞の審査結果が田畑伸一郎審査委員長から報告され、了承されました。学会誌発行・編集状況について雲和広編集委員長より、第 53 巻第 1 号が順調に編集されていることが報告されました。なお、IDEAS (Economics and Finance Research) への本機関誌の登録について幹事から提案され、次期執行部ならびに編集委員会への申し送り事項として前向きに検討することといたしました。

続いて 2015 年 6 月の第 1 回比較経済世界大会(ローマ開催)が成功裏に終わったこと、次回は 2017 年 6 月 1-3 日にロシア・サンクトペテルブルグで開催が決まったこと、次々回の大会は 4 年後の 2021 年に米・アジアでの開催が期待されていることについて岩崎幹事より報告がありました。また、2015 年 8 月 ICCEES 幕張大会について上垣幹事 ICCEES 連絡幹事より、想定を上回る 1300 人以上の参加で大盛況に終わったことが報告されました。2016 年度全国大会準備状況について、秋葉まり子大会組織委員長より 2016 年 6 月 4 日-5 日に弘前大学教育学部にて開催することなどが説明され、組織委員に菅沼桂子会員、堀江典生会員、道上真有会員によることとなりました。

### 審議事項

2016 年 6 月全国大会(弘前大学)プログラム委員長に中村靖会員、プログラム委員に鈴木拓会員、田

畑伸一郎会員、蓮見雄会員、林裕明会員が就任することが事務局から提案され、了承されました。

なお役員選挙の申し合わせ確認事項として、得票数が同数の場合、年少者を優先して幹事、会計監査に選出すること、幹事と会計監査の双方に選出された場合は、幹事を優先して選出することが確認されました。

以上を踏まえ、総会議題および議長候補、選挙管理委員候補について審議され、承認されました。

11 月 8 日に新旧合同幹事会が開催されました。旧幹事会からの申し送り事項について、旧幹事ならびに事務局より説明しました。(1) 今回の役員選挙の総投票数が 29 票と少数であったことから、郵送による投票や東日本・西日本の地域枠の解消も含めた今後の役員選挙のあり方についての検討、(2) IDEAS への本学会機関誌の登録について、(3) 2021 年比較経済世界大会の開催地について、2017 年 6 月 1-3 日のサンクトペテルブルグ大会までに本学会の態度表明を決定する必要、が申し送り事項として提起され、了承されました。

続いて新幹事会が開催されました。田畑理一前代表幹事、旧事務局より、代表幹事、事務局、メンバーシップ・Web、会計担当幹事の選出が必要なことを説明しました。互選を経て代表幹事に中村靖氏、事務局には引き続き道上、堀江、岩崎の各氏が担当となることが決まりました。会計担当には、幹事会指名により会計監査に選出されていた岩崎一郎会員を役員選挙細則第 6 条事務局担当幹事として選出することが了承されました。これにより、会計監査には、加藤志津子会員と得票数が同数で年少者優先のため次点となっていた斎藤久美子会員を二人目の会計監査に選出することが了承されました。

更に旧事務局より、日本経済学会連合評議員についての動議があり、酒井正三郎、栖原学両氏を評議員とすることに決定しました。

(事務局)

## 2016 年 EACES 定期大会のお知らせ

2016年のEACES定期大会の開催期日が、9月8～10日に決まりました。報告・パネル申し込みの締め切りは、3月1日に設定されています。詳細は次ページ資料を参照。

### CALL FOR PAPERS

THE 14TH BIENNIAL CONFERENCE OF EACES WILL BE HELD AT REGENSBURG, GERMANY, ON 8-10 SEPTEMBER 2016, JOINTLY HOSTED BY THE INSTITUTE FOR EAST AND SOUTHEAST EUROPEAN STUDIES (IOS) AND THE UNIVERSITY OF REGENSBURG.

The conference will focus on the topic of Comparative Economic Development in the Long Run

Keynote addresses will be delivered by Leszek Balcerowicz and Josef C. Brada.

We are inviting proposals for papers (up to 250 words) and panels (3-5 papers), reflecting current and ongoing research on any theme of

comparative economics. This also includes work that is focused on aspects of long run development using methods from cognate disciplines.

Proposals can be uploaded via our conference website at [www.eacesconference.eu](http://www.eacesconference.eu).

Important dates

Deadline for submission of individual abstracts or suggestions for panels: March 1, 2016

Notification of acceptance: March 31, 2016

Deadline for submission of full papers: July 1, 2016

Prof. Saul Estrin [S.Estrin@lse.ac.uk](mailto:S.Estrin@lse.ac.uk)

## 2017 年第 2 回比較経済世界大会のお知らせ

第 2 回比較経済世界大会は 2017 年 6 月 1-3 日ロシア・サンクトペテルブルグで開催されることが決まりました。

AS FOR THE TIMING OF THE SECOND WORLD CONGRESS OF COMPARATIVE ECONOMICS I AM GLAD TO INFORM THAT THE LOCAL ORGANIZERS (SERGEI

KADOCHNIKOV AND ANDREI YAKOVLEV) RECENTLY PROPOSED JUNE 1-3 2017 (ST. PETERSBURG).



Institut für Ost- und  
Südosteuropaforschung  
Institute for East and  
Southeast European Studies



# EACES 2016

14<sup>th</sup> European Association of Comparative Economic  
Studies (EACES) Conference

## Comparative Economic Development in the Long Run

Date: 8-10 September 2016  
Venue: University of Regensburg, Germany  
(Vielberth Building)  
Website: [www.eacesconference.eu](http://www.eacesconference.eu)



EACES 2016

## Call for Papers

The 14<sup>th</sup> Biannual Conference of EACES will be held at Regensburg, Germany, on 8-10 September 2016, jointly hosted by the Institute for East and Southeast European Studies (IOS) and the University of Regensburg.

The conference will focus on the topic of

### Comparative Economic Development in the Long Run

Keynote addresses will be delivered by Leszek Balcerowicz and Josef C. Brada. Professor Balcerowicz is a former chairman of the National Bank of Poland and Deputy Prime Minister. He masterminded the “Balcerowicz Plan” for the transformation process of Poland in the early 1990s. Josef C. Brada is Professor emeritus of Arizona State University. He researched and published extensively on the development of transformation economies and also worked as a consultant for many international organizations and governments.

We are inviting proposals for papers (up to 250 words) and panels (3-5 papers), reflecting current and ongoing research on any theme of comparative economics. This also includes work that is focused on aspects of long run development using methods from cognate disciplines. Proposals can be uploaded via our conference website at [www.eacesconference.eu](http://www.eacesconference.eu).

#### *Important dates*

Deadline for submission of individual abstracts or suggestions for panels: March 1, 2016

Notification of acceptance: March 31, 2016

Deadline for submission of full papers: July 1, 2016

#### *Conference fees*

If paid until 30 June 2016: EUR 190 plus annual EACES membership EUR 30. For PhD students there is a reduced rate available: EUR 95 plus annual EACES membership EUR 20

If paid after 30 June 2016: EUR 240 plus annual EACES membership EUR 30. For PhD students, the reduced rate is EUR 120 plus annual EACES membership EUR 20



## EACES 2016

### Preliminary Program

<b>Thursday, 8<sup>th</sup> September 2016</b>		
9.30-11.00	<i>Guided city tour in the medieval old town of Regensburg (please register via the conference website)</i>	<i>Domplatz (in front of the Regensburg cathedral)</i>
From 11.00	Registration	Lobby
13.30-14.00	Opening Session	H 24
14.15-15.45	Parallel Sessions	Seminar Rooms
15.45-16.15	Coffee/Tea	Lobby
16.15-17.45	Meet the editors EACES Doctoral Award	H24
17.45-18.15	Coffee/Tea	Lobby
18.15-19.45	Keynote speech: Josef Brada	H24
From 19.45	Buffet Event	Lobby

<b>Friday, 9<sup>th</sup> September 2016</b>		
8.30-10.00	Parallel Sessions	Seminar Rooms
10.00-10.30	Coffee/Tea	Lobby
10.30-12.15	Parallel Sessions	Seminar Rooms
12.15-13.45	Lunch	University cafeteria
13.45-15.15	Parallel Sessions	Seminar Rooms
15.30-17.00	Keynote Speech: Leszek Balcerowicz	H24
17.15-18.00	General Assembly, Presidential Address	H 24
19.30-Late	Conference Dinner	Parkhotel Maximilian

<b>Saturday, 10<sup>th</sup> September 2016</b>		
8.30-10.00	Parallel Sessions	Seminar Rooms
10.00-10.30	Coffee/Tea	Lobby
10.30-12.00	Parallel Sessions	Seminar Rooms
<i>From 12.15</i>	<i>Bus/boat excursion to Kelheim and the monastery of Weltenburg (please register via the conference website)</i>	<i>Departure from the conference venue</i>



EACES 2016

## Accommodation and Transport

### *Hotels*

There is a wide range of hotels available in Regensburg – a UNESCO World Heritage Site. Timely reservation, however, is strongly recommended. Special room contingents for participants in hotels that are located conveniently can be viewed, booked, and paid via the following link: [http://ibe.incomingsoft.de/publicsoft/ibe.jsp?manref=REGENSBURG&profile=Regensburg&type=uk\\_s&detail=Tagung16&lang=en](http://ibe.incomingsoft.de/publicsoft/ibe.jsp?manref=REGENSBURG&profile=Regensburg&type=uk_s&detail=Tagung16&lang=en)

### *Coming to Regensburg ...*

... by plane usually is via Munich (MUC), approx.. 110 km from Regensburg. Alternatively, you may use the airport Nuremberg (NUE), also some 110 km from Regensburg. From both airports to Regensburg (and back) you may use public transport (see [http://www.bahn.de/p\\_en/view/index.shtml](http://www.bahn.de/p_en/view/index.shtml)). From MUC to Regensburg there is a convenient private shuttle service that brings you to directly to your hotel. For this service, advance booking is required at <http://www.airportliner.com/en/>. The shared transfer option is available for 42 € per leg, discounts are available if two or more persons with the same drop-off/pick-up address book together.

### *Moving around in Regensburg ...*

... is most convenient using the bus lines that run quite frequently. The conference venue is just a minute from the bus stop “Regensburg Universität”. Travel time to/from the old town (and most hotels) is about 10 minutes. For more details see <http://www.rvv.de/?lang=en>.

Maps will be provided via the conference website.

[www.eacesconference.eu](http://www.eacesconference.eu)

---

## 事務局だより

2016年6月4-5日全国大会(弘前大学)のお知らせをいたしました。皆様、奮って自由論題にご応募ならびに大会にぜひご参加ください。また、2016年EACES定期大会についてもご案内いたしました。本学会共催ならびに関連する国際学会にも皆様奮ってご応募の上、ご参加ください。

また機関誌『比較経済研究』投稿は、12月末締切です。皆様のご投稿をお待ちしております。

2015年11月7-8日日本大学で開催された全国大会において、新役員体制が決まりました。これにより、ICCEES幕張大会開催に関係して約2年半の任期となりました。田畑理一代表幹事のもとでの事務局運営が終わりました。旧幹事の方々並びに多くの会員の皆様から温かいサポートを賜りました。事務局として至らぬ点は多かったとは存じますが、皆様からのご指導ご協力によりなんとか任期を全う

できましたこと、前代表幹事、旧事務局一同、心より深く御礼申し上げます。

中村靖新代表幹事のリーダーシップの下、新しい体制が発足しました。事務局は引き続き旧事務局メンバーが務めさせていただくことになりました。新代表幹事と想いは同じく、学会の活動に携わる機会を与えていただいたことに感謝しつつ、微力ではございますが新事務局一同、中村靖新代表幹事をお支えし、学会の円滑な運営に努めてまいりたいと存じます。引き続き事務局運営に温かいご理解とご助力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本年も残り少なくなりました。皆様どうぞ良いお年をお迎えください。

(事務局)

---

ニューズレターNO.52

2015年12月7日発行

比較経済体制学会事務局

総括担当：新潟大学経済学部 道上真有  
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050  
Phone & Fax 025-262-6518  
E-mail: michigami (at mark) econ.niigata-u.ac.jp

会計担当：一橋大学経済研究所 岩崎一郎  
E-mail: iiwasaki (at mark) ier.hit-u.ac.jp  
メンバーシップ管理/Webサイト担当：  
富山大学極東地域研究センター 堀江典生  
E-mail: horie (at mark) eco.u-toyama.ac.jp